

私の留学体験記

広島県立安古市高等学校 2年 渡邊 一輝 (わたなべ かずき)

留学期間 平成30年7月26日～平成30年8月11日 (17日間)

留学先 セントジョーンズグラマースクール (アデレード, オーストラリア)

私は今回の留学を通じて今まで以上に外国に興味がわき、機会があればまた留学や海外旅行に行きたいと思いました。終わった今はよい経験ができ満足していますが、最初はホストファミリーとの生活や、日本語が通じない、異文化の中で暮らすことに不安を感じていました。しかし、ホストファミリーや現地の学校の友達が優しくだったのでその不安もすぐなくなりました。二週間という短い時間の中で多くのことを知ることができました。

一番苦勞したことは、相手の言葉を聞き取ることです。自分の言葉を伝えるのは相手がんばって聞いてくれるのでできましたが、相手は何年も英語を使っている人だから、話すのが早すぎて聞き取れないことが何度もありました。しかし、時々聞き取ることができそれが何度も積み重なることで自信ができました。もっと英単語とリスニング力をつけていれば会話を楽しめたと思います。この悔しさをばねにこれからの勉強をがんばっていきたいです。

驚いたことは4つあります。1つ目は、留学先の高校の生徒全員がパソコンを持っていることです。日本ではまだ紙を使っていますが、世界にはこんなに発展しているところがあるのだという発見がありました。2つ目は、とても自由なところです。授業に遅れてきても先生は何も言わない、授業中に音楽を聴く、授業を途中で抜け出すなどです。海外ではそれが普通なのかもしれないけれど、日本ではそれが無く慣れていないので驚きました。3つ目は、日本と違ってご飯を食べる前にいただきますと言わないことです。その代わりに、食べ終わった後にその食事を作ってくれた人に深く感謝をしていました。4つ目は、勉強や仕事よりも、家族などの人と人との関係を重視することです。日本は会社などで遅くなった父などは待たずに夜ご飯を食べ始めます。しかし、オーストラリアでは家族みんながそろってからご飯を食べます。

オーストラリアの学校は多くのことに魅力を感じましたが、1つだけ思ったのは、勉強がやりにくそうということと、あまり勉強をしている感じが無いということです。なぜなら、パソコンに囲まれ、授業はゆったりとしていて、図書室にはゲームがあり、実際自分のホストブラザーも家であまり勉強をしている感じではなかったからです。もちろん、このことは人によって違うし、試験の前などは一生懸命勉強していた姿も印象に残っています。楽しかったことは、日本の友達と一緒にアデレードの観光地を回ったり、現地の生徒と交流をしたりしたことです。中でも一番楽しかったことは、夕食後にホストファミリーと話をしたことです。話をすることでリスニングの力がつく上に、仲も深めることができました。オーストラリアの歴史や地理のことを話したので勉強になりました。

このように貴重な体験ができた今回のこの留学経験を、今後の学校生活、人生に活かしていきたいです。